

作陽短期大学の特色等

1. 学校法人作陽学園の沿革の概要

本学園の歴史は、昭和 5 年 4 月 1 日の津山女子高等技芸学院の創立に始まる。創立者は松田信夫・藤子夫妻である。岡山県津山市南新座で発足した当学院は、昭和 6 年に津山技芸学校、昭和 11 年に津山女子高等技芸学校、昭和 19 年に岡山県作陽女子商業学校、昭和 23 年に岡山県作陽女子高等学校と校名を改称し、定員を増やすとともに施設を整備・拡充して女子教育の充実に努めてきた。昭和 38 年にはこれまでの伝統ある女子教育から、男女共学制へ移行するとともに校名も岡山県作陽高等学校となった。「作陽」が校名に初めて冠せられたのは昭和 19 年である。その「作陽」の命名の意図は二つあり、一つは美作の国の南部・美作の中心(作州津山)を指すもの、もう一つは太陽のような日本人を作ることの意味するものと言われている。

昭和 21 年には個人経営から財団法人作陽学園となり、さらに、昭和 25 年には学校法人作陽学園となった。翌年の昭和 26 年に作陽短期大学家政科が開設され、昭和 36 年には保育科が、昭和 38 年には音楽科が増設された。昭和 41 年には作陽音楽大学の前身である作陽学園大学音楽学部音楽学科が開設され、昭和 43 年には作陽学園大学は作陽音楽大学に、昭和 45 年には本学家政科と保育科はそれぞれ家政学科と幼児教育学科に改称された。昭和 50 年には作陽音楽大学音楽学部教育音楽学科が新設されて、音楽学部は 2 学科体制となった。

昭和 60 年には本学園は JR 東岡山駅から北へ 4km の岡山市矢津地区に校地を得て、昭和 62 年に本学情報処理学科を新設した。年号が平成となり、情報処理学科が軌道に乗り始めた平成 4 年 12 月に倉敷市議会は作陽音楽大学と本学音楽科の倉敷市玉島地区への誘致を決議した。平成 4 年の移転決定から用地買収、造成と工事、大学と学生の移転など全てが平成 8 年 4 月までのわずか 3 年間で完了した。平成 9 年に家政学科と幼児教育学科の学生募集を停止し、その定員を食文化学部の設置と音楽学部の定員増に振り分け、大学は 2 学部体制となった。これにより「作陽音楽大学」の校名を「くらしき作陽大学」に改称し、平成 14 年に本学情報処理学科の定員を基に食文化学部の学科増設を行い、食文化学部は食生活学科、フードシステム学科、栄養学科の 3 学科体制となった。

2. 作陽短期大学の沿革の概要

本学は岡山県下で最初の短大として昭和 26 年 4 月に家政科を津山市八出に設置した。その後、昭和 36 年 4 月に保育科が、昭和 38 年 4 月に音楽科がそれぞれ増設され、昭和 45 年には家政科と保育科をそれぞれ家政学科と幼児教育学科に名称変更した。さらに翌年の昭和 46 年には家政学科を家政専攻と食物栄養専攻に専攻分離した。食物栄養専攻は男女共学となり、短大は充実・発展の一途をたどった。

学園は出生率の低下による少子化の影響を危惧し、経営の安定化をはかる方策として、岡山県南部への移転の道を模索した結果、JR 東岡山駅から北へ約 4km の岡山市矢津地区に約 134,000 m²の校地を取得し、本学の新学科を増設することにした。昭和 62 年 4 月、

宗教的情操教育の精神の下、情報化社会で必要とされる心豊かなシステムエンジニアの養成を目的に本学情報処理科をこの地に新設した。情報化時代に突入したばかりの社会情勢の中で優秀な学生が集まり、就職も好調であった。

平成 8 年の作陽音楽大学の倉敷移転に伴い本学音楽科も倉敷に移転した。少子化と四年制大学志向が強まる中、倉敷移転を契機に短大を改組する方針が打ち出され、平成 9 年に家政学科と幼児教育学科の学生募集を停止し、その定員を食文化学部の設置と音楽学部の定員増に振り分けることとなった。押し寄せる少子化の波と、平成不況下の就職難は四大志向に拍車をかけ、短大経営は全国的にきびしさを増してきた。本学情報処理科も例外ではなく、改組転換の必要性を迫られた。平成 14 年には情報処理科の学生募集を停止し、その入学定員を食文化学部の新設学科に移し、在学生在が全て卒業した平成 15 年 3 月、情報処理科を廃止した。その結果、本学は音楽科のみの単科短期大学となったが、併設のくらしき作陽大学音楽学部(以下本報告書では音楽学部と記す)と密接な連携を保ち、充実した教育・研究を行っている。

3. 作陽短期大学の特色

学園創立者である松田藤子は仏教に信心深い人であったが、仏教を基本とした人間形成こそ学校教育に必要なものとした。本学の「宗教」のテキスト『真理への道』(松田藤子昭和 41 年著)の序で次のように述べている。

「み仏の教えは心の糧であり、心の栄養である。若き日より真理を求めて永遠なる幸福とは何であるかを知り、永い人生生活を、強く、正しく、明るく生き抜き、歓喜と感謝で如何なる逆境に遭遇するとも、逆境の中の恩寵を心に発見して、無碍の一道に永住するには、若き時代に聖なる教えを聞くことにより実現する」

若い人たちが聖の教えを聞信することが永遠の幸福を得ることであり、“五濁悪世の難度海”といわれる人生を悦びと感謝に満ちた生涯とすることができるとの強い信念で創立したのであった。この教えを一つの言葉とし「念願は人格を決定す 継続は力なり」で表わし、これを学是とした。

4. 作陽短期大学の所在地、位置、周囲の状況等

(1) 所在地 岡山県倉敷市玉島長尾 3524 番地

TEL 086-523-0888

FAX 086-523-0811

<http://www.ksu.ac.jp>

(2) 周囲の状況等

倉敷市は人口 443,420 人(H17.6 末現在)の東瀬戸圏の拠点都市であり、日本でも数少ない「白壁の街並」が残る美観地区で全国的に有名な、芸術性の高い文化都市である。作陽短期大学は、この美観地区から西へ約 10km、JR 新倉敷から徒歩約 15 分、山陽道玉島 IC から約 3 分の緑に囲まれた自然環境の良い小高い丘陵地に位置する。

5. 法人理事長、学長、ALO の氏名、連絡先、略歴

(1) 法人理事長・学長

氏名 松田 英毅
生年月日 昭和 12 年 10 月 16 日
連絡先 〒710-0292 倉敷市玉島長尾 3515 番地 TEL 086-523-0888

学歴 昭和 39 年 3 月 九州大学大学院理学研究科修士課程修了
昭和 46 年 11 月 理学博士

職歴 昭和 39 年 7 月 東京大学物性研究所文部技官
昭和 43 年 7 月 九州大学理学部助手
昭和 47 年 4 月 作陽音楽大学教授(化学担当)
昭和 48 年 7 月 学校法人作陽学園理事長(現在に至る)
昭和 59 年 10 月 社会福祉法人作陽保育園理事長(現在に至る)
昭和 62 年 10 月 作陽音楽大学学長・作陽短期大学学長(現在に至る)
平成 9 年 4 月 名称変更により くらしき作陽大学学長(現在に至る)
平成 12 年 4 月 モスクワ音楽院名誉教授(現在に至る)
平成 12 年 4 月 作陽学園学園長(現在に至る)

(2) ALO

氏名 竹内 京子
生年月日 昭和 33 年 1 月 10 日
連絡先 〒710-0292 倉敷市玉島長尾 3524 番地 TEL 086-523-0827
FAX 086-523-0811
E-mail kyoko.takeuchi@ksu.ac.jp

学歴 昭和 55 年 3 月 東京藝術大学音楽学部器楽科卒業
昭和 57 年 3 月 東京藝術大学大学院音楽研究科修了

職歴 昭和 57 年 4 月 作陽音楽大学助手
昭和 58 年 4 月 作陽音楽大学講師
平成 9 年 4 月 名称変更により くらしき作陽大学音楽学部助教授
平成 14 年 4 月 作陽短期大学音楽科助教授
平成 14 年 4 月 作陽短期大学音楽科長(現在に至る)
平成 16 年 4 月 作陽短期大学音楽科教授(現在に至る)